

ベトナムにおける川金コアテック技術セミナーの反響

平成 25 年 8 月、ハノイ・ホーチミンでベトナムの管理者・技術者向けに「100 年防錆を実現した Al-Mg 溶射工法」の技術セミナーを開催したところ、会場内での反響に加えて、下記メディアで取り上げられました。

Ho Chi Minh Port - Road Magazine, Transport and Communication Magazine, MOT magazine, Science Technology Magazine, TEDI Magazine, UTC Internal magazine, Homepage of BR Consultant, Road Magazine, Khanh Hoa Science & Technology Association, Railway magazine

その中の一つとして、以下にホーチミンでの開催記事をご紹介致します。

原文は 9 月 1 日現在、下記のサイトにて配信されています（ベトナム運輸省のインターネット新聞）。

<http://giaothongvantai.com.vn/cong-nghe/201308/tim-giai-phap-chong-gi-cho-goi-cau-thep-332770/>

「ベトナム橋梁科学技術協会及びホーチミン市運輸大学の協力によって行われたホーチミンでの“**支承部の長期耐久性を実現する Al-Mg 金属溶射工法に関する研究**”」についてのセミナーには、建築管理局とベトナム南部に拠点を置くプロジェクト管理機関の代表者らが出席した。この様子は運輸省のサイトにおけるインターネット新聞の技術ニュース「**鋼製支承への防食処理**」として配信されている。

まず、ベトナム橋梁科学技術協会の専門委員として、準教授であり、また博士でもある Tong Tran Tung 氏が、ベトナムにおけるメタル橋の現状と腐食原因について発表した。Tung 氏によると、ベトナムではメタル橋の割合が高く（約 208 橋）、道路全長の 30% に及ぶ。更に、過酷な気候における腐食の起きやすい環境下によって、これらのメタル橋の多くは老朽化している。これらの老朽化した橋梁の改修費は橋梁建設に必要な費用の 30～70% に当たるとされている。様々な防食方法が適用されているものの、それらの塗装膜の耐久年数が 15 年程度とされているため、長期における高い耐久性を持つ防食処理工法についての需要が高まっている。

次に、川金コアテックの技術者である姫野岳彦氏は「**支承部の長期耐久性を実現する Al-Mg 金属溶射工法に関する研究**」について発表した。姫野氏は、道路システムには橋梁が重要な役割を果たすとし、各部材の長期的耐久性の考慮が重要となっていると指摘した。まず既設の支承構造に着目し、さらにそれらの支承が設置された



場所が過酷な腐食環境下にあるため、長期的耐久性を有する防食方法の適用の必要性を説いた。姫野氏は、現在日本の橋梁に適用されている「**Al-Mg 金属溶射工法**」について、「ベトナムの天候は日本と似ている（高温多湿である）ため、鋼製部材に適用する Al-Mg 金属溶射工法はベトナムでも同様に効果を発揮します」と説明した。このセミナーの参加者も「**Al-Mg 金属溶射工法**」に高評価を与えたが、「**Al-Mg 金属溶射工法**」をまずは実際に適用し、他の防食方法の効果と比較してから最適な方法を導入した方が良いとしている。」